

黒川 侑 & 伊東 裕

2019年
1月6日(日)
開場17:30/開演18:00
入場料:会員3,500円/
一般4,000円/学生2,000円
(全席自由席)

8本の弦の可能性に迫る
ヴァイオリンとチェロのための至純の二重奏。

123
Mitake Sayaka Salon (vol.22)

Yu Yu
KUROKAWA ITO

黒川 侑 (くろかわ・ゆう) Violin

2006年日本音楽コンクール第1位、岩谷賞(聴衆賞)他3つの特別賞を受賞。2015年ルドルフ・オリビツァー国際ヴァイオリンコンクールでAnna Piccini特別賞、2016年仙台国際音楽コンクールで聴衆賞を受賞。

これまでにスイス・ロマン管弦楽団、スペイン国立管弦楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、京都市交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団など国内外のオーケストラとの共演、リサイタルなど多くの演奏会に出演。京都市交響楽団定期演奏会(広上淳一氏指揮)での演奏がCD「名曲ライブシリーズ」に収録された。また国際音楽祭ヤング・ブラハに招待され、ファイナルコンサート(ドヴォルザークホール)で、ブラハ室内交響楽団と共演。その後再度招待され、ワルシュタイン宮殿を始め、チェコ各地で演奏会に出演して高い評価を受ける。ウィーン、ブリュッセルで研鑽を積んだ後、桐朋学園大学院大学(修士課程)修了、現在エコール・ノルマル音楽院で勉強を続けている。

工藤千博、P.ヴェルニコフ、漆原啓子、堀米ゆう子、藤原英雄、S.ルセフ、F.シゲタイの各氏に師事。倉敷市芸術文化奨励章、岡山芸術文化賞グランプリ、音楽クリティック・クラブ賞奨励賞、京都府文化賞奨励賞、京都市芸術新人賞、青山音楽賞、出光音楽賞を受賞。

◇プログラム

W.A.モーツァルト：二重奏曲ト長調 KV423
E.イザイ：無伴奏ヴァイオリンソナタ 第2番 イ短調
G.カサド：無伴奏チェロ組曲
Z.コダーイ：二重奏曲 Op. 7

*プログラム等は、やむを得ない事情により 変更になる場合がございます。

伊東 裕 (いとう・ゆう) Cello

奈良県生駒市出身、第77回日本音楽コンクールチェロ部門第1位受賞、徳永賞受賞、カルテット・アルバとして、シブヤク国際弦楽四重奏コンクール2016にて、Career Development Awardsを受賞。奏トリオとして、第67回ARDミュンヘン国際コンクールピアノ三重奏部門第1位受賞。

これまでに長岡京室内アンサンブル、関西フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団、神戸市室内合奏団、藝大フィル他オーケストラと協演。小澤国際室内楽アカデミー、音楽塾オーケストラ、また中之島国際音楽祭、いこま国際音楽祭、武生国際音楽祭、ミュージックフェストなら、北九州国際音楽祭、宮崎国際音楽祭、東京・春・音楽祭等に参加。NHK-FMリサイタル・ノヴァ、クラシック倶楽部、トッパンホールランチタイムコンサート、紀尾井ホール「明日への扉」、JTが育てるアンサンブルシリーズなどに出演。藝大にて福島賞、安宅賞、アカンサス音楽賞、三菱地所賞受賞。これまでに斎藤建寛、向山佳裕子、山崎伸子、中木健二各氏に師事。東京藝術大学音楽学部を首席で卒業。同大学院音楽研究科修士課程に進学し、現在ザルツブルク・モーツァルトウム大学にてエンリコ・ブロンツィ氏に師事。サントリーホール室内楽アカデミー第3期フェロー、ステラ・トリオ、奏トリオ、ラ・ルーチェ弦楽八重奏団、紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー。ヤマハ音楽支援制度2011年度奨学生、(公財)青山財団2014年度奨学生、(公財)ローム音楽財団2017年度奨学生。



8本の弦の可能性に迫る—— ヴァイオリンとチェロのための至純の二重奏。

モーツァルトはオーストリア、イザイはベルギー、カサドはスペイン、そしてコダーイはハンガリー、各作曲家の"音楽のナショナルカラー"を紡ぐ。

コダーイ: 二重奏曲 Op. 7について——

「今回のメインのコダーイの二重奏曲ですが、アンサンブルの曲としてかっちりとか合わせるというよりは"可能性"がどこまでも広がっていくような曲だと考えています。可能性というのは8本の弦の可能性もありますし、ハンガリーの民謡風の歌であったりリズムであったり、曲の可能性もそうですね。

8本の弦とは思えないほどのスケールの大きさがあつたというのが、この曲の一つの大きな魅力だと思います。

コダーイといえば、超絶技巧でも有名なチェロの無伴奏の曲がありまして、当時から本当にチェロ一本で演奏しているのか、と疑われるほどでした。

そういった意味でも、コダーイの曲というのは楽器を超越したイメージがあります。」
(伊東)

「コダーイといえば"民謡"というのは大きく外せない要素で、民謡独自の"歌い方"があるような気がします。なんと云いますか…土の匂いを感じられるような。有名な二重奏では他にラヴェルのヴァイオリンとチェロのデュオ曲もありますが、練習していても、同じ8本の弦から出てくる音楽がこんなに違うのかと感じてしまいます。今回の、ヴァイオリンとチェロのみという組み合わせの演奏会というのは珍しいので、他の室内楽とは違った弦の響きであったりですか、特色ある"音色"の発見をしていただけたらと思います。」
(黒川)

W.A.モーツァルト: 二重奏曲 ト長調 KV423について——

「この曲はもともとヴァイオリンとヴィオラのために作曲されました。今回はヴァイオリンとチェロと、ということですが、コダーイとはまた違って、室内楽的な楽しさが詰まった曲だと思っています。ところどころで掛け合いがあり、弦楽器2本だけなのに、物足りない感じもなく、モーツァルトの優美な世界が堪能できる一曲です。」
(伊東)

E. イザイ: 無伴奏ヴァイオリンソナタ 第2番 イ短調について——

「イザイ自身がヴァイオリン弾きだったこともあり、6曲ある無伴奏ヴァイオリンソナタはどれも、かなり技巧的に派手に作曲されています。

今回の曲は各々の楽章に題名がついていて、例えば第1楽章は"妄執"(Obsession)です。この楽章のみでなく、曲全体を通してバッハの無伴奏パルティータやグレゴリオ聖歌「怒りの日」のセンテンスが引用されているのですが、1楽章だけを見ても、バッハや聖歌に対する、イザイの作曲家としての"妄執"があつたのかもしれないと想像できます。

また冒頭のバッハのセンテンスが"聖"としたら、イザイの部分が"俗"といいますか、"聖"と"俗"の入れ替わりみたいなものも表現されていると感じます。例えば、2楽章は聖歌のイメージで、逆に3楽章は民族的な世俗曲というイメージですし、そういうのを行ったり来たりするというような曲ではないでしょうか。

そういう意味では、とても面白い特殊な曲だという印象を持ちます。」
(黒川)

G. カサド: 無伴奏チェロ組曲について——

「カサドは作曲家というよりはチェリストなので、この無伴奏チェロ組曲はチェロという楽器の特性を上手く活かして作曲されています。

スペイン人だったので、スパニッシュな色もかなり出ています。

この曲は短いですが、それぞれの楽章のキャラクターがはっきりしています。

3楽章なんかはまさにスパニッシュダンスです。

それがチェロ一本で(響きの面であつたり)うまく描かれているなあと思います。

弾いていて、やはりカサド自身がチェリストだな、と思う箇所がたくさんあります。

聴いていて映える曲だなあと思いますね。」
(伊東)



大ホールのプラチナ席をしのご
"美竹清花さろんという楽器"の中で
味わう一期一会

世界に羽ばたく才能あふれる
トップアーティストが続々と集結。

日本のトップクラスの若手演奏家が、
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。
美竹清花さろんが追求する"本物の音楽"は、
演奏者と参加者とわたしたちの、
三位一体の努力と対話から生まれます。

誕生。
クラシック音楽サロン、
宮益坂、
渋谷駅 徒歩2分

Mitake
Sayaka
Salon



●お問い合わせ

株式会社 I LA (美竹清花さろん)
東京都渋谷区渋谷1-12-8 (〒150-0002)
☎ 03-6452-6711 (平日 9:00-18:00)
070-2168-8484 (時間外可)
Fax 03(3409)0188

